

# 金沢市観光発展の研究

中西 弘一

**キーワード：**金沢市，観光客入れ込み数，聞き取り調査，兼六園

## 1. はじめに

金沢市は、日本 3 名園の 1 つである兼六園をはじめ、成巽閣、尾山神社などに代表される由緒ある神社仏閣や数多くの文化財を有している。また、武家屋敷の土塀、三茶屋街の格子戸などのまちなみがあり、謡曲・茶道・華道などの伝統文化が加賀友禅・九谷焼・金沢漆器などの工芸品とともに市民の生活に溶け込んでいて非常に趣深く、魅力的な町である。余暇やゆとりが重要視される今日において、観光業は今後一層発展していくと考えられる。そのような中、金沢は観光を通じてより多くの人に知ってもらい、足を運んでもらいたい町である。

## 2. 研究の目的と研究方法

本研究の目的は、伝統工芸やすばらしい歴史的観光資源に囲まれている金沢を観光客がどのような形態で楽しんでいるか、またそれに伴う観光客の入れ込み数の変化と、今後どのようにすれば金沢の観光業が発展していくかを考察することである。

そこで、まず金沢市の観光の現状を知るために、金沢市役所、金沢市観光協会での文献調査や金沢市を訪れた観光客への聞き取り調査を行った。

## 3. 金沢市の観光の現状

平成 10 年度の金沢市内主要 12 ヶ所の観光施設の利用者数は、合計で 325 万 6,920 人であり、平成 9 年の利用者数 338 万 6,187 人より減少し、前年比で 96.2%に留まった。これは、大きく落ち込んだ前年をさらに下回る結果となり、長引く景気低迷に春先からの天候不順も合って、利用者数が回復基調に向かうことができなかった。調査対象の 12 施設のうち、前年より利用者数が増えたのは、県立美術館、金沢老舗記念館、金沢にし茶屋街、志摩の 4 施設であり、他の 8 施設は前年を下回った。

旅行雑誌じゃらの読者アンケートによれば行ってみたい観光地ランキングで金沢は沖縄、北海道、長崎、京都、神戸に次いで第 9 位なのに対し、もう一度行きたい観光地ランキングでは第 16 位に落ちる。このことから、訪問した観光客が来訪前に抱いていたイメージほどには満足していないものと考えられる。金沢は、国民の間のイメージでは、城下町や古都とされているが実際は、北陸の最大都市として、現代的な町並みが発展している。そのため、観光客は持っていたイメージと現実のギャップに驚き、失望して帰っていると考えられる。今後、都市イメージのみのアピールだけでなく具体的な施策を展開する必要がある。

## 4. 筆者の行った聞き取り調査

この調査は、金沢市を訪れる観光客の発地や観光経路、行動パターンを明らかにし、金

沢市の観光調査結果と比較しながら、今後の金沢市の観光発展を考えていく上での資料とするため、1999年（平成11年）10月20日、21日、11月10日に金沢を訪れた観光客に対し、兼六園前で口頭によるアンケート調査を行ったものである。無作為に選んだ観光客100人から回答を得た。

#### （1）訪れた目的

アンケートに答えてもらった人たち全員が、観光目的であった。これは調査地点が、金沢の代表的観光地兼六園の前であったため、全員が観光目的であったと考えられる。

#### （2）同行人数

旅行に同行した人数構成は、「2人」が最も多く52%で、ついで「3人」の16%である。以下、「4人」の10%、「1人」、「ツアー」の4%、「5人」、「8人」、「9人」の3%、「6人」、「遠足」の2%、「7人」の1%となっている。

#### （3）観光客の発地

金沢へきた観光客の発地を見てみると、石川県の12%が最も多く、次いで、東京都の11%となっている。今回の調査で目立ったのが、東京、大阪、神奈川、京都などの都会のほうからの訪問である。これは、金沢市の観光PRが首都圏や大阪などの都市部を中心に行ったためと考えられる。

#### （4）観光客の立寄観光施設

金沢の観光客で立寄率が最も高いのは、兼六園の100%である。観光客の中で金沢だけを観光しに来た人は56%であった。兼六園のみの観光は25%、兼六園と金沢市内の観光施設を訪れた観光客は29%、兼六園と金沢市外の観光施設を訪れた観光客は26%、兼六園と金沢市内および金沢市外の観光施設を訪れた観光客は17%であった。また、ほかにとりあえず兼六園に来たがこれから先の予定は決めてないという観光客も3%であった。

兼六園のほかに訪れる金沢市の観光施設として、長町武家屋敷跡、近江町市場があげられる。また、金沢市外に訪れる場所として能登や福井、富山、岐阜などが多かった。和倉温泉、山代温泉、山中温泉といった金沢周辺の温泉へ泊まりに来た後、金沢を訪れ兼六園に来るといふ人が目立った。

#### （5）旅行スタイル・日程

金沢を訪れる観光客の観光スタイルは、個人旅行の94%が最も多く、次いで、ツアー4%、学校の遠足2%であった。ほとんどの観光客が個人旅行として金沢を訪れていた。

金沢を訪れた観光日数は、日帰りが21%、宿泊を伴うが78%である。そのうち、1泊2日が36%、2泊3日が26%、3泊4日が10%である。国内旅行で1番長い旅行日程の組は4泊5日で埼玉、石川、熊本、山口が発地であった。海外からの訪問者は、ドイツからの2週間とアメリカからの20泊であった。日帰りや1泊2日などの比較的短い旅行日数が目立つ。ほとんどの観光客が宿泊をともなっているが、金沢市内で宿泊する人は少なかった。

#### （6）利用交通機関

利用交通機関は電車の30%が最も多く、ついで自動車の28%、バスの20%、飛行機の11%、新幹線の6%、徒歩の5%であった。どの交通機関も平均的に使われており、かたよった交通機関はなかった。

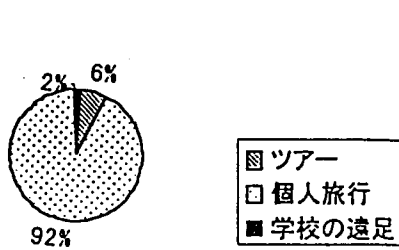


図1 旅行日程

出典：筆者の観光アンケート調査

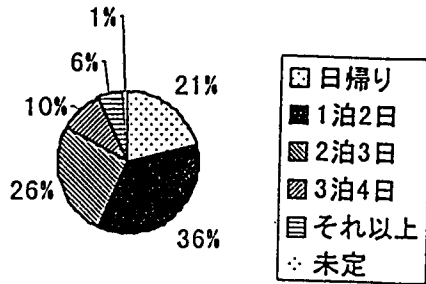


図2 旅行スタイル

出典：筆者の観光アンケート調査

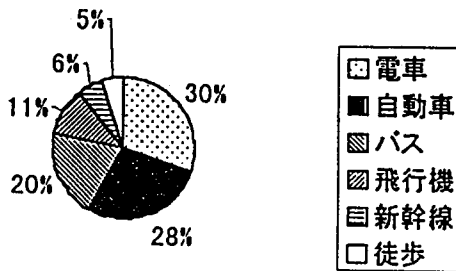


図3 利用交通機関

出典：筆者の観光アンケート調査

## 5. 金沢市経済部観光課のアンケート結果と筆者の行った聞き取り調査結果の比較

両者のアンケート結果を比較してみると、観光客の発地については、東京、神奈川、大阪からが多く、ほぼ同じ結果になった。

観光施設で立寄率が高いのは市のアンケート結果では、長町武家屋敷跡で、筆者のアンケート結果では兼六園だった。市のアンケート結果では、兼六園は長町武家屋敷跡、兼六園、石川門の順で、筆者のアンケート結果では、兼六園、長町武家屋敷跡、近江町市場であった。このちがいは、金沢市のアンケートの調査地点が長町武家屋敷跡であり、筆者のアンケートの調査地点が兼六園であったためと考えられる。しかし、市のアンケート結果では、兼六園は長町武家屋敷跡には及ばなかったものの、ほぼ同じ数になっており、兼六園を訪れる観光客が長町武家屋敷跡同様に多いことがうかがえる。去年と一昨年と市のアンケート結果の第1位は兼六園であった。こうしてみると、やはり金沢を代表する観光地は兼六園であると考えられる。

旅行日程においては、両者の結果のどちらもほぼ同じ数値になった。どちらも日帰りと1泊2日が半数以上を占め、比較的短い滞在の観光であることがうかがえる。

利用交通機関は、市のアンケート調査では自動車が57%、電車が28%となっている。

筆者のアンケートでは電車の30%、自動車の28%の順になっている。金沢にはまだ新幹線が通っておらず、飛行機を利用するにも小松市にある空港を利用しなくては行けないため、どうしても金沢に来るには、自動車か電車のどちらかを利用するのが多くなってしまいうようである。

## 6. 金沢市観光の問題点

まず1点目は、観光客の中のイメージの中で金沢が古都、城下町といったイメージが強い。しかし現実には、金沢は北陸の中心都市として現代的な町並みが並び、観光客がそのギャップに驚き、失望してしまうことである。

2点目は、観光客に金沢には兼六園しかないと思われていることである。

3点目は、観光客の人たちが金沢市内に宿泊しないということである。金沢周辺の温泉に宿泊するため、金沢の観光に費やす時間が減り、兼六園だけという観光になりがちである。

4点目は、冬季に金沢を訪れる観光客が少ないということである。冬季の積雪のため観光客が減少するのが現状である。

5点目は、金沢がほかの観光地との結びつきが薄く観光地としてみると点でしかないということである。他の観光地のように線で結ばれておらず、観光客離れにつながる。

以上5点が筆者が考える金沢市観光の問題点である。

## 7. 金沢市観光の改善点

金沢の観光をより良くし、観光客を増やすには先に挙げた問題点を解決する事が重要であり観光発展に通じると考える。

まず1点目に対しては、金沢の人たちが金沢を住みやすい町にすることが解決策になると考える。金沢を観光のために町づくりをするのではなく、金沢の人にとって住みやすい町にすることで、観光客に金沢というすばらしい町があり、その中に昔ながらの伝統の面影が見えるという風を感じてもらえれば観光客の持っていたイメージを壊すことなく満足してもらえるはずである。

2点目は、金沢には兼六園しかないと思われていることだが、これは他の観光資源があまり知られていないため、ほかのさまざまな観光資源の情報発信を他の都市にしていくことで金沢の奥深さを知ってもらうことができるはずである。

3点目は、観光客が金沢に宿泊しないということだが、金沢の夜のイベントを充実させることで解消できるはずである。夜間ライトアップされている観光地を知ってもらうことなどで金沢の夜を楽しんでもらうのである。

4点目は、冬季金沢でしか見れないもの、できないことをアピールしていけば金沢の冬の魅力を理解してもらえるはずである。兼六園の雪吊りや、冬の金沢の食を体験してもらうのである。

5点目は、金沢が観光都市として点でしかないことだが、現在金沢市は、京都、松江と3古都キャンペーンという観光ツアーを実施している。またこの他にも、国際観光ネットワークを北陸3県で作ったりして、金沢を線で結ぼうとしている。このようにして、金沢をほかの都市とつないでいき、それをアピールしほかの観光地に負けないようにしていく必要がある。今後、外国人観光客も増加してくるので、そのためのネットワーク、受入体制の整備、宿泊施設の誘致など観光基盤の整備・充実を図ることも重要である。

## 8. 終わりに

現在、日本全体が不況の中、観光地の観光客入れ込みが軒並み減少している。金沢市観

光協会の方から金沢の観光について話を聞いたときに、こういうことを言っておられた。以前までは、学校の修学旅行に金沢に来る学校がいくつかあったそうである。しかし、最近では金沢に修学旅行に来る学校はほとんどないそうである。確かに、最近の学校の修学旅行は海外に行くことも珍しくない。そう考えると金沢を修学旅行にする学校も減って当然である。しかし、そんな時代になったからこそ、金沢を修学旅行先にして金沢に目を向けてほしい。金沢には、加賀友禅や和菓子、金箔、九谷焼、足を運べば輪島塗りも近くにある。非常に伝統工芸が盛んである。現在の日本は、こういった伝統工芸がなくなりつつあるのが現状だ。海外よりも、自分たちの国の伝統工芸に目を向けてもらいたい。今後、伝統工芸はより一層厳しい立場に立たされるかもしれない。そうならないためにも、金沢に1人でも多くの人に足を運んでももらいたい。

金沢は非常に美しい町である。しかし、一年を通して雨が多く、冬季には多くの雪が降る。またほかの観光地のように観光都市が隣接していない。観光といった点で見ると、こうしたマイナス要因が目立つ。今後はこうしたマイナス要因をどう克服していくかがカギになるはずである。金沢を訪れる観光客が増え、金沢という都市が発展していくことを願っている。しかし、金沢が発展していけば、金沢の町の美しい景観を壊してしまう恐れもある。まずは、金沢に住んでいる人が住みやすいと感じることのできる町にすることが観光業の発展に多きく貢献するのではないかと考える。

#### 参考文献

- 金沢市経済部観光課(1998)：『平成10年度金沢市観光調査結果報告書』
- 金沢観光ビジョン策定委員会(1994)：『金沢観光ビジョン策定事業』
- 石川県商工労働部観光推進総室(1998)：『統計から見た石川県の観光』